

令和 2 年 7 月 29 日

広島大学原爆死没者追悼式および
広島大学平和企画を実施

本学では、広島大学に包括された旧制諸学校の教職員、学生、生徒および児童で、在職中または在学中、広島に投下された原子爆弾により被爆され、その後亡くなられた方々の霊を慰めるため、下記のとおり原爆死没者追悼式を執り行います。また、同日、広島大学平和企画を実施します。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の対策および熱中症対策のため、参加人数について制限を行います。また、参加者にはマスク着用の上、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で実施いたします。

記

(1) 広島大学原爆死没者追悼式

日 時： 令和 2 年 8 月 6 日(木) 10 時開式

場 所： 広島大学東千田キャンパス内
「広島大学原爆死没者追悼之碑」前
(広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号)

式次第： 開式の辞
原爆死没者名簿奉納
黙とう
追悼の辞
献花及び献水
閉式の辞

※今回新たに確認された死没者 23 人を書き加えた原爆死没者
名簿（記載数 2,022 人）を奉納

< 参考 >

閉式後、引き続き、「原爆死没者遺骨埋葬の地碑」(東千田キャンパス内)に、広島文理科大学および広島高等師範学校の関係者による献花および献水を執り行います。

(2) 広島大学平和企画

広島大学平和企画 「被爆 75 年・広島大学からの平和メッセージ」

日 時：令和 2 年 8 月 6 日(木) 10 時 45 分～12 時

場 所：広島大学東千田未来創生センター 1 階 BIBLA Senda
(広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号)

内 容：

広島大学長挨拶 (10 時 45 分～10 時 50 分)

第 I 部 「学生ヒロシマ宣言」の発表・手交式

(10 時 50 分～11 時 10 分)

学内公募で選ばれた多国籍の学部学生・大学院生 13 人が、平和をテーマに徹底討論を行い、起草した「学生ヒロシマ宣言」を発表する。

1. 趣旨説明 (平和センター 川野センター長) ※別紙 1 参照
2. 「学生ヒロシマ宣言」発表 (日英)
3. 広島大学長への手交式

第 II 部 被爆樹木等を材料として制作した楽器 (ビオラ) お披露目

(11 時 15 分～11 時 25 分)

昨年度の平和企画でのバイオリン制作に続いて、被爆の記憶の継承と音楽による平和発信を目的として、被爆樹木等を材料としたビオラを制作したので、そのお披露目を行う。

1. ビオラお披露目
2. 企画説明 (国際室 嘉陽研究員) ※別紙 2 参照

第 III 部 広島大学教員・学生による平和祈念ミニコンサート

(11 時 30 分～12 時)

広島大学教育学部第四類音楽文化系コースの教員・学生による演奏を通し、平和を想う場とする。

1. 演目等解説 (教育学部 徳永准教授)
2. 教育学部第四類音楽文化系コース教員及び学生による演奏 (4 曲程度)
* 演奏では被爆樹木ビオラ及びバイオリンを使用

【お問い合わせ先】

(原爆死没者追悼式について)

財務・総務室財務・総務部総務グループ 谷、久保田

TEL:082-424-6032 FAX:082-424-6020

(平和企画について)

国際室国際部グローバル化推進グループ

岡田 TEL:082-424-6042

嘉陽 (かよう) TEL:082-424-4566

FAX:082-424-6179

2020年6月23日
広島大学平和センター

2020 学生ヒロシマ「平和」を考えるサミット
開催の趣意

戦後、国際社会は自由で開かれた国際協調主義を標榜し育んできた。経済のグローバル化が進展する一方、これに伴う影の部分として、途上国における貧困、気候変動、新興・再興感染症などの公衆衛生や難民問題が深刻化していった。これらのグローバル課題は、一国だけで解決することは困難で、国境を越えた世界規模での協調の必要性は常識であった。議論はあったにせよ、国際社会はグローバル化の瑕疵を反グローバリズムによってではなく、グローバルな協調によって乗り越えようとしてきたのである。

ところが今般の新型コロナ禍は、一国では解決できない問題であるにもかかわらず、戦後75年長きにわたって構築されてきたグローバルな協調体制を根底から覆すような事態を招いている。皮肉にも、各国は自国を考えることで手一杯となり、他国との協調を捨てた「自国第一主義」が広がりつつある。

こういった時代であるからこそ、「平和」を標榜する広島大学は、冷静にポスト・コロナの社会を見据えて、自国主義に陥らない国際協調による「平和」を模索し、具体的な提案をする使命を負っている次世代を担う学生を中心に、ポストコロナの「平和」を自由闊達に議論してもらう場として、2020 学生ヒロシマ「平和」を考えるサミットを開催する。

2020 学生ヒロシマ「平和」を考えるサミット: 募集要項

1. 趣旨・目的

選抜された広島大学の多国籍の学生が、「平和」の重要性・意味について議論、発表します。原爆、虐殺、捕虜虐待や飢餓など人類が直面した惨劇を真正面から捉え、そこから和解と恒久平和に向けた教訓を得ながら、未来の世界について考えます。

2. 2020 年のテーマ

世界は新型コロナウイルスの流行によって、人々の健康は脅かされる中、私たちの社会は生活防衛のために日々、戦っています。しかし、事態が長期化するなかで、核廃絶に向けた知的対話、真剣な議論の火を消さないことも、また重要です。例えば、新型コロナ禍によって NPT 再検討会議は無期限延期されている状況を考えてみましょう。核軍縮に向けた議論は事実上、棚上げになってしまっています。したがって被爆 75 周年を迎える本年は、ポスト新型コロナウイルス時代の世界も見据えつつも、他方でヒロシマの経験という原点に立ち返りながら、被爆経験の継承と核廃絶の取り組みのために市民社会、国際社会が成すべき原則を構想し、普遍的平和を目指す「2020 学生ヒロシマ宣言」として発表します。

なお、新型コロナ感染拡大の影響がなければ、広島大学外の大学生の参加も考えていましたが、2020 年本サミットへの参加資格は、広島大学の学生に限定します。

3. 実施内容

- 2020 年 6～7 月に学生による全3回の集中討論(サミット)を行います。
- そのうち1回は、インターネットを通じ被爆者に参加いただく予定です。
- 選抜学生はセンターの研究会にも参加します。
- 使用言語は英語と日本語です。
- 2020 年 6～7 月に全3回、センター教員によるショート・レクチャーを予定しています。
- 被爆経験の継承と核廃絶の取り組みのために市民社会、国際社会が成すべき原則を構想し、宣言としてまとめ(英語・日本語)、普遍的平和を目指す「2020 学生ヒロシマ宣言」として 8 月 6 日に学長に手交します。

いずれも、インターネットを通じて、あるいは社会的距離をとりながら実施します。

4. 応募・選抜の方法

- 募集方法:《公募》
- 募集人数:8 名(最大)
- 応募資格
 - 2020 年 8 月 6 日時点で広島大学に在学する学生
 - インターネットを通じて議論ができる環境を有するもの
 - 英語で議論ができるもの(日本語会話もある程度できることが望ましい)
- 募集〆切:2020 年 6 月 7 日

- 必要書類:
 - 出願フォーム(Application Form)
 - エッセー「新型コロナ後の世界におけるヒロシマの役割について」(氏名とタイトルをのぞき、英文で500-800 Words)
以上をメールで送付する (heiwa@hiroshima-u.ac.jp)。表題には「Application for 2020 Student HIROSHIMA Summit」と明記のこと。

- 選考結果:
 - 平和センターのメンバーが最終候補者を選考します。
 - 最終候補者には 2020 年 6 月 12 日までに連絡します。

5. 問い合わせ

The Center for Peace, Hiroshima University

広島大学平和センター

〒730-0053

広島市中区東千田町 1-1-89

TEL 082 542 6975

FAX 082 245 0585

E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp

なお、選考過程に関する問合せには応じられませんのでご了承ください。

【被爆樹木等を素材とした楽器（ビオラ）制作について】

使用した被爆樹木等について：

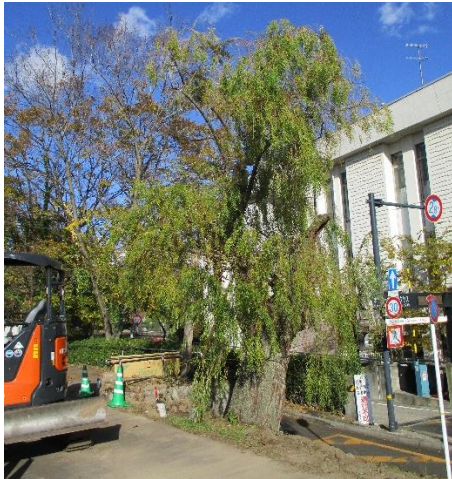
- ・被爆樹木および被爆者埋葬地に自生していた樹木の材木を使用
- ・被爆樹木は爆心地から約 370m 地点にあるシダレヤナギで、2017 年 12 月の養生作業の際に一部伐採したもの。所有者立会いのもと、許可を得て取得した。
- ・埋葬地樹木は 2018 年 4 月に広島市南区似島の原爆死没者御遺骨発掘作業の際に発掘地の立木を伐採したもので地権者の許可を得て取得した（両樹木ともに使用目的として楽器制作も承諾済み）。
- ・2019 年にバイオリンの制作実績があり（バイオリン本体の側板、テールピース、あご当て、糸巻、エンドピン、へ使用した）楽器制作に耐えうる素材であることを確認済み。

制作：

- ・三原バイオリン工房の三原博志氏（イタリア・クレモナ国際バイオリン制作学校にて学ぶ、糸崎在住）に制作を依頼
- ・ビオラの一部（側板等）の素材として被爆樹木等を使用し、楽器を制作する。
※本来は材木を乾燥させる年数が必要であるため、近年に採取した被爆樹木等のみの素材ではビオラ一挺を制作することが難しい。楽器全体の強度の問題を解消するために、昨年引き続き今回は一部（側板等）の素材に使用して制作を実施する。

今回の制作で被爆樹木等の材木を使用する部位：

- ・被爆樹木シダレヤナギ
⇒側板（上部・下部の 4 ヶ所）、裏板の象嵌細工（板にはめ込む装飾）
- ・埋葬地樹木エゴノキ
⇒側板（中部の 2 ヶ所）、あご当て
- ・その他の部分はヨーロッパからの輸入材（カエデ等）を使用
- ・被爆者感情に配慮し、ニスには茶色系の色で仕上げる予定（赤・オレンジ色系の色は炎や血液、ヤケドを連想させてしまう恐れがあるため、昨年は黄色系の色で仕上げた）
- ・シダレヤナギの爆心地からの距離は、広島市ホームページから引用『被爆樹木リスト（平成 31 年 4 月 1 日現在）』 <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/48/9262.html>



被爆シダレヤナギ（中区青少年センター西側）と約 240m 離れた原爆ドーム遠景
（被爆シダレヤナギから原爆ドームまでの距離は嘉陽がウォーキングメジャーで計測）



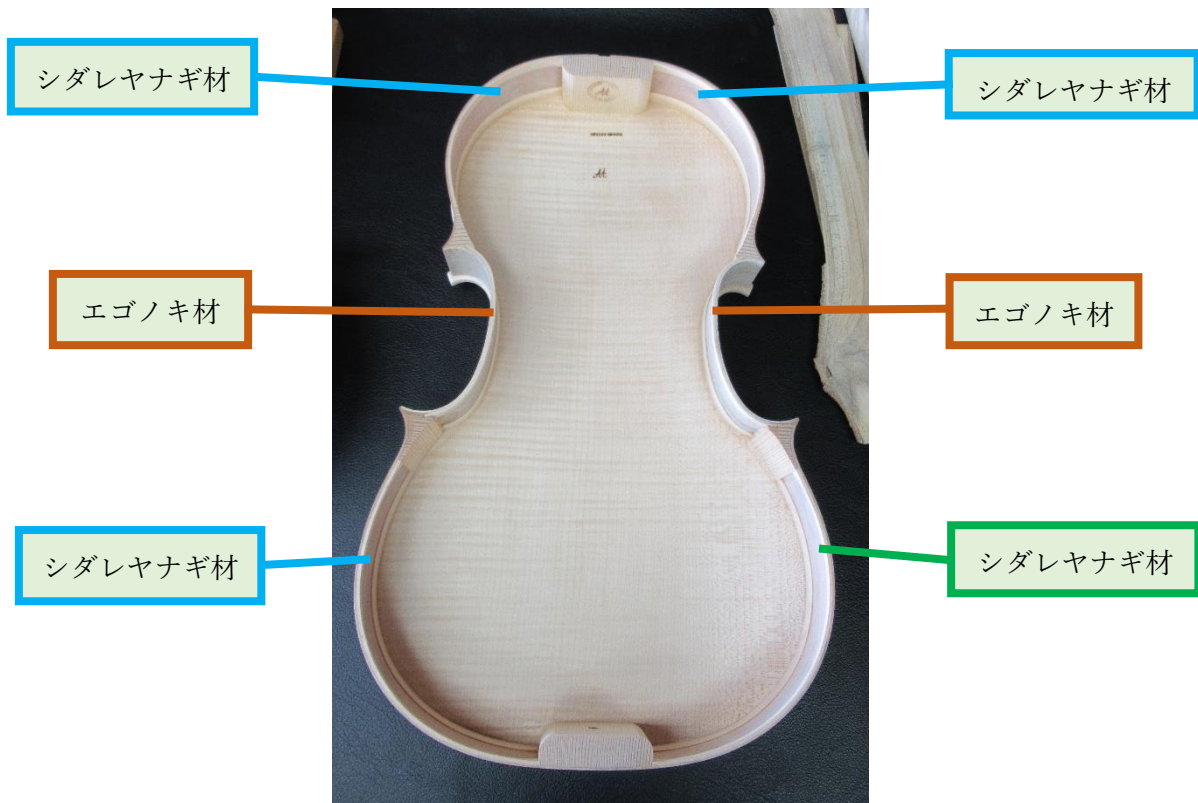
2017 年 12 月の養生作業における採取の様子、青○位置にあった腐食部分を切断したもの



2018 年 4 月の似島小筏地区における原爆死没者御遺骨発掘作業の際に伐採したエゴノキ
この樹木から 3~4m 離れた地点から被爆者とみられる御遺骨が発見された。



三原バイオリン工房にてビオラ制作中の三原博志氏（2020年6月2日）



制作途中のビオラ(裏板の内側と側板。制作ラベルは貼っていない状態)(2020年6月2日)



エゴノキ材で制作したあご当て（上面）

パテで虫食い部分を埋めてある



エゴノキ材で制作したあご当て（側面）

（2020年6月2日）



ニス塗り途中の側板と表板



裏板の象嵌細工（焦げ茶色部分がシダレヤナギ材）

（2020年6月29日）